1. 令和6年1月～3月期の景気動向

今期のDI平均値は△35.8ポイント。小売業は8ポイント上がったが、建設業は19ポイント、製造業は14ポイント、サービス業は6ポイント下がり、卸売業は横ばい。前期の10～12月の△29.6ポイントから6.2ポイントマイナスとなった。

業種 ＼ 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 50 (△ 38)	△ 56 (△ 56)	△ 22 (△ 13)	△ 29 (△ 15)	△ 44 (△ 22)	△ 33 (△ 33)	△ 61 (△ 57)	△ 59 (△ 40)	△ 33 (△ 29)	△ 24 (△ 35)
採算		△ 44 (△ 31)	△ 44 (△ 47)	△ 45 (△ 24)	△ 41 (△ 22)	△ 33 (△ 22)	△ 33 (△ 22)	△ 48 (△ 46)	△ 50 (△ 34)	△ 41 (△ 35)	△ 41 (△ 33)
資金繰り		△ 6 (△ 13)	△ 25 (△ 25)	△ 28 (△ 17)	△ 23 (△ 20)	△ 11 (△ 11)	△ 33 (△ 22)	△ 42 (△ 46)	△ 46 (△ 48)	△ 35 (△ 12)	△ 24 (△ 13)
業況		△ 38 (△ 19)	△ 53 (△ 44)	△ 41 (△ 27)	△ 35 (△ 28)	△ 11 (△ 11)	△ 11 (△ 22)	△ 54 (△ 62)	△ 44 (△ 48)	△ 35 (△ 29)	△ 41 (△ 38)
経営上の当面する問題点	1位	材料価格の上昇		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
	2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
	3位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加		人件費以外の経費の増加		店舗施設の狭隘・老朽化	
業種別コメント		物価高騰による原材料価格の上昇と官公・民間需要の停滞から売上高は12ポイント、採算は13ポイント、業況は19ポイントマイナスだが、資金繰りは金融機関の柔軟な対応もあり7ポイントプラスとなった。来期の見通しについては働き方改革関連法の施行、技術者等の深刻な人手不足により、さらに厳しい状況が懸念される。		需要の停滞や原材料価格の高騰が依然として続いているため、売上高は9ポイント、採算は21ポイント、資金繰りは11ポイント、業況は14ポイントとすべての項目でマイナスとなった。来期の見通しは円安の伸長による輸入材料価格やエネルギー価格の高騰によるコスト増が重荷となり、すべての項目でマイナスとなり、さらに厳しい状況が懸念される。		物価高騰による需要の停滞により売上高は22ポイントの大幅なマイナスとなり、採算は11ポイントマイナスとなった。資金繰り、業況は横ばいとなったが、店舗・倉庫の老朽化や梱包資材、電気料金等の間接経費の負担が採算を圧迫している。来期の見通しは売上高の改善は見込まれるみこまれるが、採算、業況は横ばいと需要の停滞による厳しい状況が懸念される。		長引く物価高で消費者の買い控えが続く中、季節要因による需要も停滞したことで、売上高は4ポイント、採算は2ポイントマイナスとなった。資金繰りは4ポイント、業況は8ポイント改善されたが消費者ニーズの変化や間接経費増加により厳しい状況となっている。来期の見通しとして売上高、採算は厳しい状況が予想され、業況は季節要因の期待もあり若干ではあるが回復が見込まれる。		客足の回復が難しく、材料等仕入単価の高騰が続く中で売上高は4ポイント、採算は6ポイント、資金繰りは23ポイント、業況は6ポイントと全項目でマイナスとなった。来期の見通しは季節要因により売上高は9ポイントプラスとなっているが材料等仕入単価の高騰や店舗施設の老朽化による修繕費が懸念され採算、資金繰り、業況は厳しい状況が予想される。	



とくに好調 (50≦DI)　好調 (25≦DI<50)　まあまあ (0≦DI<25)　不振 (△25≦DI<0)　きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD･I値